



山行報告



■六甲分割縦走シリーズ① ゆっくりリズム山行

- 日 程：10月6日(土)
- 参加者：L藤原(千) SL澤田(律) 乙坂 兼澤 黒本 高島 徳本

- 行動記録：須磨浦公園駅 9:00 発～旗振山(9:50 着)10:00 発～鉄拐山(10:15 着)10:25 発～おらが茶屋(10:35 着)11:05 発～梅尾山(11:45 着)12:00 発～横尾山(12:25 着)12:30 発～横尾バス停(13:50 着)

♣♣六甲分割縦走シリーズ①に参加して

乙坂

台風25号が日本海側を西から東へ移動し、暴風圏からはやや外れ、この日の天気は曇り、降水確率は40%だった。微妙なお天気でしたが、予定通り山行は行われ、須磨浦公園駅へと集まった。家を出る時に雨が降っていた為2名の方が不参加で合計7名。小雨が降る中、鉢伏山～旗振山へと歩いて行く。

須磨海岸が見えた。三日月形の砂浜が3つほどと海岸すぐ側まで船が浮かんでいるのが見えた。

何回か参加したことある半縦走では景色をゆっくり見る事はないが、今回は5回シリーズの①回目。眺めを楽しめた。

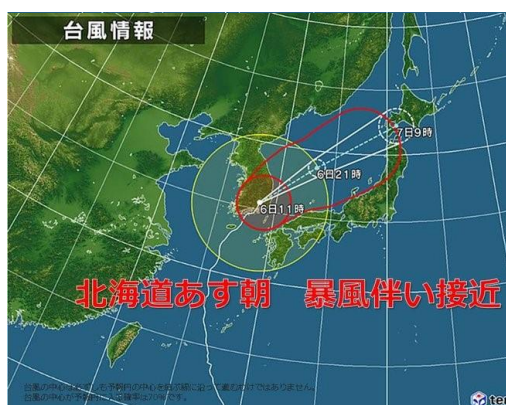
いつもは登る事が無い鉄拐山へも登った。そこからは須磨の料金所と月見山トンネルが見えた。

おらが茶屋付近の屋根のある所で、10:45分かなり早めの昼食をとった。私を含め、皆さんも朝が早かったため無理なく食が進みました。兼澤さんから葡萄の差し入れを頂き口の中が潤わされた。いつも思う事ですが、山で食べる果物は何だか生き返ります。

少し早めの昼食はこの後の山歩きの足取りを軽くさせたように思われました。梅尾山～横尾山～東山へと進める。途中の馬の背では強風で少し恐ろしかったけど、湿った砂は晴れた時より歩き易く感じました。東山から遠くに高取山と菊水山が見えました。

その姿が驚く程遠くに見えたので、全縦走を成し遂げる人達を改めて尊敬しました。

やはり私には全縦走は無理だなあ…





■讃岐富士と石垣の丸亀城、UDONと骨付き鳥の旅

- 日 程：10月8日(月・祝)
- 参加者：(A班)La 平井 SLa 森本 乙坂 河合 狩集 木下 田中(美) 苦瓜
平石 廣岡 安田 矢根 吉村
(B班)Lb 砂川(延) SLb 木村 有本 香川 垣内 田中(重) 田中(由)
土屋 橋本(健) 橋本(万) 福田 松下 森下 山下(純)

- 行動記録：JR姫路駅南口 7:25 発ー吉備SA (8:40 着)9:00 発ー飯野町ミニ・ストップ (9:50 着) 10:00 発ー飯野町登山口 (10:20 着) 10:30 発ー三合目 10:50 発ー五合目 11:00 発ー頂上 (11:40 着) 11:55 発ー三合目 12:25 発ー休憩所 (12:40 着) 12:50 発ー飯野町ミニ・ストップ 13:15 発ー塩がま屋 (13:25 着) 14:10 発ー丸亀城P (14:30 着)ー丸亀城散策ー丸亀城P (15:20 着) 15:25 発ー与島PA (15:50 着) 16:10 発ーJR姫路駅南口 (18:00 着)ー宝殿駅北側 (18:30 着)ー山電高砂駅 (18:45 着)

◆◆讃岐富士(飯野山)・さぬきUDON・丸亀城を楽しむ 田中(重)

JR姫路駅南口を7時25分に総勢27名で出発。

砂川会長の軽快なハンドル捌きで一路、香川県の讃岐富士に向け秋晴れの山陽路を……。今日の行程の飯野山・塩がま屋・丸亀城観光の説明があり車内の雰囲気は讃岐富士より塩がま屋の「さぬきうどんと骨付き鳥」で盛り上がっていました。

吉備SAでの休憩時には平井リーダーのリクエストで海外遠征トレ・チロル地方に行かれた香川さん、河合さんからの山行報告とアルバムで盛り上がり楽しいひと時でした。

山陽道から瀬戸大橋道へ……。壮大な海峡風景や讃岐富士が見えだすと、やがて丸亀市のミニストップ飯野町駐車場に到着。ストレッチ後、平井リーダーのA班、砂川会長先導のB班に分かれて飯野町登山口から10時30分に登山開始。

私にとって何度も目にしていた讃岐富士が飯野山(422m)とは初めて知りました。「むかし話」にてでくる、おむすび形の山(ビュー地形・円錐状孤峰)で数個点在する中の一番高い山で一度は登りたかったので楽しみにしていました。



中腹の開けた処からは丸亀市街や、のどかな讃岐平野に溜め池や黄金色の田園風景が展望できました。頂上では、おじよも桜(樹齢200年の巨木)や、おじよも伝説の大男の足跡が残る巨岩を散策し、集合写真のあと足元に注意しながら急なルートの下山でした。「野外活動センター」で登頂記念カードをゲット!!

少し遅めの昼食で「塩がま屋」の骨付き鳥にかぶりつき空腹の胃袋が満たされ「ホッ」としたところに本場さぬきうどんできっと皆さん落ち着いた様で満腹満腹。

昼食後は丸亀城へ……。現存の木造天守では日本一小さく「石の城」と形容される石垣の名城で全国的に有名で地元では自慢の城の様です。確かに大手門辺りからの天守と美しい曲線美を描く石垣「扇の勾配」は秋空の「いわし雲」とのコラボで思わずシャッターを切っていました。

平井リーダー・ドライバーをして頂いた砂川会長・皆さま、お世話になりました。

♣♣マイクロバスで行く讃岐富士と丸亀城

平石

「平井様、マイクロバスに変更になったのですか？もし、可能であれば私も・・・」ということで25人目で参加OKになりました。結局この日は、27人の参加者で最近では珍しく大所帯でした。

10月8日(月・祝)体育の日らしく好天候。空はうろこ雲でとても爽やかで秋らしい！

この日は半分バス旅行気分、後の半分は讃岐コーチン骨付き鳥が目の前に！楽しみ楽しみ。

ルンルン気分で姫路じばさんびるを7時25分出発、一路四国へ。途中、久しぶりに瀬戸大橋を渡りましたが、やっぱりスケールが大きい。輝く海の色にマッチしていて、渡り応えがある瀬戸大橋は凄いなあ。

マイクロバスは、9時50分にミニストップ飯野町店に到着。そして、そこに駐車。ここから少し歩いて上がると『讃岐富士標高422M、キョリ2.2Km飯野山登山口』という大きな看板があり、10時20分、車進入禁止のゲートを越えて山道を上がって行きました。登山道は広く整備されていて歩きやすく、どんぐりがたくさん落ちていました。両サイドから竹や高木でトンネルのようになっていて殆んど木陰を歩く感じで、空気もマイナスイオン(^)o(^)気持ちよく歩くことができました。

登山道のいたるところに看板や地図があり、田中陽希さんが来られた時の写真も貼ってありました。頂上までは1時間もかからなかったと思いますが、緩やかに山全体をぐるっと回って登ったので四国の絶景をあらゆる方向から見渡すことができたのは良かったと思います。

おじよもの足跡展望所30M下という看板があり「おじよもって何のこと？」と言いながら下りてみると、**おじよも伝説**として・・・昔この地域にいたという伝説が残っている**おじよも**という巨人の足跡がありました。昔々その昔、山を造るのが得意なおじよもがおっての、海を渡った長旅の疲れか天秤棒で担っていた後のふごをひっくり返して城山と常山ができたんじゃ。前のふごは丁寧に移してできたんが、飯野山なんじゃ。という伝説があるそうです。

下山道は、粘土質のような土の上に落ち葉があり滑りそうでしたが、ここで滑っていると、讃岐コーチンがお預けになってしまう。ゆっくりゆっくり落ち着いて！

予定よりだいぶ時間もオーバーしてお腹もペコペコでしたが、リーダーが前もって予約しておいてくださったので・・・讃岐うどんと骨付き鳥の定食で超満足！！讃岐コーチンとっても美味しかったです。(お土産に焼いてもらいました。→ 夕食に間に合って良かったで一す。)

帰りに「石の城」と形容されるその名のおり、石垣の名城として全国的に有名な丸亀城により帰路につきました。

こんなに人気のある山行を計画してくださったリーダー、そして超満員のマイクロバスを安全運転で連れて行ってくださった会長さん、ご一緒に参加の皆さま、楽しかった1日をありがとうございました。





■赤兎山・荒島岳

(越前で人気の山を歩く 紅葉を楽しむ)

- 日 程：10月13日(土)～14日(日)
- 参加者：L尾内 SL和田 砂川(延) 上田 高島 待場 松下 三木(悦) 村上 矢根

●行動記録：

- (13日) 林道ゲート11:40発～小原登山口(12:05着)12:25発～小原峠(13:10着)13:15発～赤兎山(14:00着)14:10発～赤兎避難小屋(14:30着)14:40発～赤兎山(15:00着)～小原峠(15:45着)15:50発～小原登山口(16:30着)～林道ゲート(16:50着)～民宿林湊(18:00着)
- (14日) 中出登山口6:05発～小荒島岳(8:30着)8:45発～シャクナゲ平(9:10着)9:15発～もちが壁(9:35着)～荒島岳(10:30着)11:00発～シャクナゲ平(11:55着)12:05発～小荒島岳分岐(12:25着)～中出登山口(14:00着)

♣♣林道ゲート17時までには下山せよ

高島

赤兎山に登るためには、私有地の為、有料ゲート(1人300円)を通過しなければなりません。閉門は17時です。山電高砂駅を6時に出発して林道ゲートに11時40分に着きました。そこからすれ違いの難しい1本道を対向車が来ないかドキドキしながら25分の車登山です。紅葉が始まっているかな～と楽しみにしながらススキの中を走ります。



赤兎山色づき始めた登山道

小原登山口出発は12時25分。16時30分にはここに戻るというミッション登山です。

最初のうちは沢を渡る所が3ヶ所あり、落ち葉の絨毯で沢のせせらぎを聴きながら、頭の上にはナナカマドの実がたわわに実り頭をもたげていました。小原峠が中間地点で45分を一気に登りました。ここは赤兎山と大長山の分岐点で、ここまで下山の方々と多くすれ違いました。

私達は赤兎山を目指して、大きな段差を足の付け根がブッチというくらいまで上げて45分歩きました。大舟山の稜線分岐を過ぎると少しして赤兎山山頂14時着。お天気が良く明日登る荒島岳が南方にバッチリ見え、反対側には

もやがかかった白山 別山 三ノ峰の山並が見えました。赤兎山山頂から鳩が湯まで8キロのルートもありました。

時間があつたので、木道の1本道を進み赤兎避難小屋まで20分。台風の影響か笹の葉先がほうきのように裂けて痛み、本来なら赤く染まるつつじが茶色く枯れていました。しかし、全体を見渡すと、赤(茶)、黄、緑の3色のコントラストが綺麗な紅葉に見えました。

山頂の景色を思う存分楽しみ15時下山開始。16時30まで1時間半。またまた段差の大きい上に、粘土状のすべりやすい道なので、木の根っこや笹に助けてもらいながら、上りよりも慎重に足を運びました。10人のパーティの団結した結果、下山時刻のミッションクリア16時50分でした。

この夜の民宿 林湊(はやしみなと)さんのお話も付け加えさせていただきます。今時1泊2食で5500円。夕食には350mlのビール付き。翌日のおにぎり弁当付き。これを聞いただけで、どれだけこの女将さんがいい方かおわかりになられたことでしょうか。皆様も一度ご

利用なさって下さい。宿が良ければ山もさらに思い出深いものとなりました。

リーダーさんはじめパーティの皆様、ご迷惑もおかけしましたが、ありがとうございました。

♣♣荒島岳

1日目の宿、民宿林湊のおかみさんの温かい接待に嬉しい思いをして、2日目の荒島岳です。

今日は中出(なかんで)コースを行います。

登山口～小荒島岳～シャクナゲ平までブナ林の中を歩き、さあこれからひと頑張り、ふた頑張りです。

荒島岳の急登、はしご、くさりがり滑り注意の看板があるもちが壁を過ぎ、頂上まであと421メートルから、まだか、まだかと思う中、前荒島岳、中荒島岳を通りやっと荒島岳に到着。頂上からの素晴らしいながめを見ながら、お昼ご飯は民宿の美味しいおにぎりをいただきました。

下山は、滑らないように気をつけて歩きました。

この度の山行は厳しかったけれども、とても楽しかったです。

砂川会長、安全運転ありがとうございました。

リーダーをはじめみなさまお世話になりありがとうございました。

矢根



■瀬川山(とろかわやま)・妙見山

但馬の盟主をゆっくり歩こう

- 日 程：10月20日(土)～21日(日)
- 参加者：L 砂川(延) SL 和田 木下 木畑 黒本 高島 藤原(千) 松下

● 行動記録：

(20日) JR宝殿駅南口 8:25 発～木の殿堂P (11:30 着) 12:05 発～十石山頂(12:55 着) 13:00 発～林道出合(13:30 着) 13:35 発～瀬川山頂(14:00 着) 14:20 発～林道出合(14:40 着) 14:45 発～十石山頂(15:05 着) 15:10 発～木の殿堂登山口(15:40 着)

(21日) 6:00 起床～兎和野高原野外活動センター 8:15 発～作山登山口 9:00 発～(道迷いのため約20分ロス)～杉林休憩地点(10:20 着) 10:25 発～妙見峠(10:50 着) 11:05 発～妙見山頂(11:50 着) 12:30 発～妙見峠(13:30 着) 13:05 発～登山口(14:20 着)

◆◆但馬の山～瀬川山、妙見山に登る

木畑

<1日目>

道の駅「村岡ファームガーデン」で今晚のバーベキューの食材を調達する。黒毛和牛である。

最初の目的地「木の殿堂」駐車場に車を止める。殿堂は木で作られた円錐形で建物内は正に大木の中を生命の水が流れていることをイメージした噴水を配していた。

昼食の後、「瀬川山」を目ざして林道を登って行きました。途中紅葉した落ち葉を踏みながら一足早い紅葉狩りを楽しみました。約2時間で山頂(1039m)につきました。

眺めは素晴らしく明日登る妙見山を南に、南西に氷ノ山、鉢伏山、北東に蕨武岳、と大パノラマを見ることが出来ました。明日本番の「妙見山」登山への良い準備訓練となりました。

次の目的地今晚の宿泊場所「兎野高原野外活動センター」へ向った。夕食は一番楽しみにした野外バーベキューである。最初に3張のテントを設営。夕食作業に全員で取り掛かる。

男性陣が炭火をおこすが中々火力が上がらず見かねた女性陣が近くから枯れた小枝を調達。やっと黒毛和牛を食することが出来た。大満足の食事会となった。センター内にあるお風呂で1日の疲れを癒やし、最後に明日の妙見山を目指す夢を見ながら全員シュラフに潜り深い眠りに入った。

♣♣但馬妙見山の紅葉

高島

但馬妙見山は但馬を東西に分ける但馬中央山脈の南端に位置し矢田川、日置川の分水嶺をなしている兵庫50山の1つです。蘇武岳から金山峠を経て妙見山に至る縦走路は、加藤文太郎や植村直己が歩いたコースらしいです。

今回私達のコースは、村岡区作山の集落から入る旧妙見山登山道で、マイナーコースのため行き交う人もなく9時に出発しました。一帯は杉の樹林帯で歩き始めは道がわかったのですが、20分ほど歩くと道が荒れていて深い谷を登ってしまいました。が、これはおかしいと思い地図とヤマップで確認すると、ルートから、ずれていることがわかり早めに修正することができました。

昔から信仰の山として親しまれていたことがわかるお地藏様が三十丁目、三十一丁目とかいてあるのがいくつかありました。また、地籍調査の赤い印が登山道にあったので、わかりにくい道でしたが妙見峠まで2時間で歩くことができました。道には鹿のフン、毒きのこをよく目にしました。

妙見峠には2体のお地藏様が登山者を見守ってくれていました。ここから稜線歩きでブナやカエデが黄葉、紅葉してヤマボウシも真っ赤、ナナカマドの実も真っ赤に染まり、それらが太陽の光に照らされその隙間は青空の真っ青な色彩。

大谷の頭では、立派なさるのこしかけをみました。頂上には11:50到着。頂上の眺望は景観だけで考えると良いとは言えないが、ブナ林や人工林のマイナスイオンの中での昼食は最高でした。予定では、名草神社の方まで足をのばすはずだったのですが、登ってきた急で荒れた杉林を下山することを考えたら、早めに下山しようということになりました。

いざ下山してみると、途中で足がつる方もいましたが、1時間20分でおりました。しかし、14時30分でも、山裾はもう夕方のように日が暮れる速さに驚きました。

今回はキャンプ付き山行で、皆さんと楽しく2日間過ごせたことに感謝致します。

そして使用後のテントのかたづけ、キャンプ道具のかたづけ、レンタカーの返却等をして頂いた会長ご夫婦に感謝致します。ありがとうございました。





■六甲山 穂高湖 女性委員会山行 静かな山上の湖畔へ

- 日 程：10月28日(日)
- 参加者：L 瀧原 SL 三木(悦) 小田(敏) 乙坂 垣内 田羅間 松浦 松下 村上 安田 矢根 山本(清)
- 行動記録：JR新神戸駅 8:55 発～市ヶ原(9:55 着)10:05 発～摩耶山(12:30 着) 12:40 発～掬星台(12:45 着)13:15 発～穂高湖(14:00 着)14:45 発～掬星台(15:20 着)ロープウェイ 星の駅(15:30 着)15:40 発～摩耶ケーブル駅(16:00 着)

♣♣穂高湖 静かな山上の湖畔へ

小田(敏)

9月に入会して初めて山行に参加しました。六甲山は、20代の頃に1度だけ登ったことがあるので、是非行ってみたいと思い参加を申し込みましたが、リーダーから届いた計画書をよく見ると歩行距離約9.5kmと書かれてあり、初心者の私が歩けるのか、とても不安になりました。

当日、新神戸駅9時に集合。何組ものパーティが待ち合わせをしており、メンバーの顔知らない私は、キョロキョロ。メンバーも私の顔を知らないで、違う方向に行ったのではと探してくれていたようです。優しいメンバーに感謝です。緊張感もスーッと解れました。

初心者の私は、リーダーの後ろについて12名でスタート。秋晴れで絶好の山行日和です。少し歩くと目の前に長い石段、黙々と登りきり今日は調子が良いのを感じました。その先布引の滝、そして布引貯水池。この辺りは、平坦な道できれいに清掃されており、気持ちよく周りの景色を見ながら楽しめました。残念ながら紅葉には少し早かったようです。

市ヶ原櫻茶屋を過ぎてしばらく行くと急登が続く。稲妻坂と教えてもらった。その先天狗道を経て摩耶山頂を目指す。木の根っこ道あり、手足を使い岩場を登り、無我夢中でリーダーの後をついて行ったので、周りの景色はあまり覚えていません。とにかく皆に迷惑をかけてはいけなと余裕がなく必死でした。今回、予定より時間がかかってしまったのか「摩耶山上はスルーします」とリーダーがおっしゃったので、ちょっとガッカリ。でも結局は、摩耶山初めての私の為に寄ってくれました。みんな協力的で嬉しかったです。感謝！！

掬星台に到着。12時を過ぎていたので、お腹はぺこぺこ。昼食後は、アゴニー坂を下り穂高湖へ。その頃には、すっかりみんなに溶け込み余裕も出来、足取りも軽やかに歩くことが出来



来ました。静かな穂高湖では、少し紅葉しており、温かいコーヒーを頂きながら、虫に刺された時の対処法などを教えてもらって、とても勉強になりました。コーヒーとても美味しかったです。疲れが癒されました。

下山は、掬星台に戻りロープウェイとケーブルを利用して帰路につきました。ロープウェイからの景色も所々紅葉しており秋の深まりを感じる事が出来ました。

リーダーを初め一緒させていただいた皆さん、大変お世話になりました。楽しい1日を過ごすことが出来ました。有難うございました。



■石鎚山・瓶ヶ森(四国)

- 日 程：11月1日(木)～2日(金)
- 参加者：L 和田 SL 三木(悦) 香川 垣内 河合 砂川(延) 田中(重)
田中(美) 村上 安田

● 行動記録：

- (1日) JR姫路駅：6:00ーロープウェイ下駐車場(10:00着)ーロープウェイ上駅(10:28着)
10:45発ー試し鎖12:25ー夜明峠(12:55着・昼食)13:10発ー石鎚神社(14:15着)14:30発
ー土小屋方面分岐15:00ー国民宿舎石鎚(17:00着・泊)
- (2日) 国民宿舎石鎚6:10発ー伊吹山7:35ーシラサ峠8:00ー子持権現登山口(8:55着)9:20発ー
瓶ヶ森登山口10:00ー瓶ヶ森(男山)(10:30着)10:45発ー瓶ヶ森(女山)(11:00・
昼食)11:25発ー東の川出会い14:55ーロープウェイ下駐車場(15:35着)15:45
発ーJR姫路駅(20:00着)

◆◆霧氷の石鎚山・大パノラマの^{カメ}瓶ヶ森

田中(重)

11月1日(木)10時20分

石鎚登山ロープウェイ下谷駅から8分で標高1、300mの成就駅まで一気に高度を上げ瀬戸内海・西条市街が遠望出来ました。

ストレッチ後、真赤に紅葉したドウダンツツジを見ながらゆるやかな坂道を約25分。やがて成就社神門ここから西日本一の霊峰石鎚登山の始まりで気が引き締まる。

いよいよあの急登の天狗岳に挑戦できる思いで胸が鼓動する。八丁坂から結構キツイ上りを進み鎖場の少し手前の夜明峠で昼食タイム。その後、試しの鎖へ向かったが現場をみて厳しい岩場に唾然とする。せめて一の鎖だけでも挑戦したい思いでしたが二の鎖・三の鎖すべて迂回ルートで登りました・・・もともと修行の為の鎖、登山靴では無謀の様です。

二の鎖回りからは紅葉どころかガスっていて視界は遮られていましたが思わぬ出会いが私達を向えてくれました。霧氷の花・ツララと自然の造形が弥山(石鎚神社)まで感動の霧氷ショーを楽しみ、キツイキツイ上りの疲れも吹っ飛びました。

やがて奥之宮頂上社(弥山)の鳥居、ここでもしめ縄にまで海老のシッポの光景には驚くばかりでした。そんな状況での天狗岳(1982m)は視界不良で登頂は断念する事になり弥山頂上で記念の撮影後足元に気をつけながら下り、二の鎖からの分岐を南東へコースを取り宿舎までの下りはガスも無くなりスッキリ晴れ渡り一面腰辺りまでのインジチ篋の中、振り返ると石鎚山・前方には明日の瓶ヶ森を遠望しながら素晴らしい山容風景を楽しみながらの下山でした。



厳しかった石鎚山・感動の霧氷でしたが、是非次回は天狗岳に挑戦したいです。

11月2日(金)6時、気温0度。

ストレッチで寝覚めの体をほぐし国民宿舎石鎚を後にしてメンバー元気で瓶ヶ森に向け出発。神々しい日の出を見ながら黒岩山の裾野を進み、よさこい峠で小休止後、昨日の石鎚山を背にゆるやかな上りで右手前方には土佐湾を見ながら伊吹山へ・・・快晴の秋空にほうき雲が浮かび瓶ヶ森が綺麗な稜線を描いている。

思わずカメラを構える事しばしば、やがて急峻な岩峰子持権現山を巻きながら子持権現登山口からドライブウエーを脇目に瓶ヶ森登山口へと上り笹原・白骨林・ウラジロモミの景色を堪能しながら瓶ヶ森(男山)から瓶ヶ森(女山)頂上(1897m)に着く。

記念撮影後の昼食タイムでは北にしまなみ海道、東に1400m級の山並みが連なり、南に土佐湾、西に石鎚山の大パノラマ展望を満喫しました。

11時25分下山開始、ゴルフ場を思わせる笹の中、台ヶ森から東の川新道までの下山でしたがガレ場に落ち葉の急斜面は約2時間半ストックを頼りに長い長い下りは足腰に随分堪えました。ロープウェイ下駐車場に着いたのが予定より1時間強オーバーでしたが全員無事で下山出来ました・・・お疲れさまでした。

和田L、三木SL、長距離の往復の安全運転をして頂いた砂川会長お世話になりました。ありがとうございました。

【概念図】



■ 鎧岳・兜岳(894m・920m)

室生火山群の特徴ある二山に登る

- 日 程：11月3日(土)
- 参加者：L須増 SL竹内 尾内 兼澤 中村

- 行動記録：キャンプ場(11:20着)11:30発～目無地藏(11:53着)11:55発～兜岳(13:00着)13:30発～峰坂峠(14:00着)～葛地区分岐(14:10着)～鎧岳(14:36着)14:45発～葛地区分岐(15:10着)～葛バス停(16:00着)17:05発～近鉄名張駅(17:55着)18:05発

◆◆おしゃれなネーミングの山、鎧岳・兜岳

兼澤

「葛なる鎧が岳にきてみれば そよ吹く風のくさずりの音」(西行法師)

鎧岳・兜岳は奈良県の東北端、三重県境に接する曾爾村にある。曾爾村には、ススキで有名な曾爾高原や俱留尊山がある。また、同村は、西に室生寺、東北に赤目四十八滝、北に香落溪、遙か南には大台ヶ原がある山間の静かで人情豊かな村である。

11時、計画通り、「曾爾横輪」バス停を出発。途中、「サン・ビレッジ曾爾」でトイレ休憩。従業員の方から、この山域は、鹿・猿、あらいぐま以外の獣はいないとの情報を得た。

登山口の「延命(目無)地蔵」に到着。計画時刻に若干遅れた。この登山口、今年の2度の台風により崩落していた。バリエーション・ルートによる登山開始となる。コンパスで方向を確認しながらの歩行を続けること暫し、ピンクのテープを見つけホッとすする。この登山道、急斜面の連続で息があがる。何か所か、ロープが設置されていたが劣化しており、取り付け方にも不安を感じた。自分の手足で登ることを意識した。13時、兜岳山頂(920m)についた。風もなく陽ざしもあったので暖かだった。曾爾高原・俱留尊山を見ながらの昼食はおいしかった。

13時30分、鎧岳をめざし出発。下から見上げた鎧岳は、あたかも天を摩す鎧を着たような雄雄しい岩山だ。果たして、こんなお山に登攀できるのか?心細くなっていた。

相変わらずの急斜面の連続で気がぬけないのは兜岳と同様だったが、しかし、登山道も手入れされており、案内標識も整備されたお山であった。鎧岳の山頂(894m)は、広く平坦で、平和な気持ちになった。少し休憩をして、峰坂(むねさか)峠に引き返し下山した。計画時刻より30分余り早く、16時に「蔓」バス停に到着した。

山行中、あっちこっちに台風の爪あとが残っていた。道の陥没、落石、大木の根こそぎの倒木など、自然の力の大きさを思い知った。

また、こんな厳しい2座が地元の幼稚園の遠足コースになっていると聞き、びっくり仰天した。

今回の山行、まず、何よりも穏やかな天気にも恵まれて初秋を楽しめたこと、道中、何事もなく無事に下山できたこと、台風のため中止となった山行に再挑戦して下さったリーダーや良きメンバーに恵まれたこと、すべてに感謝です。最高でした。

